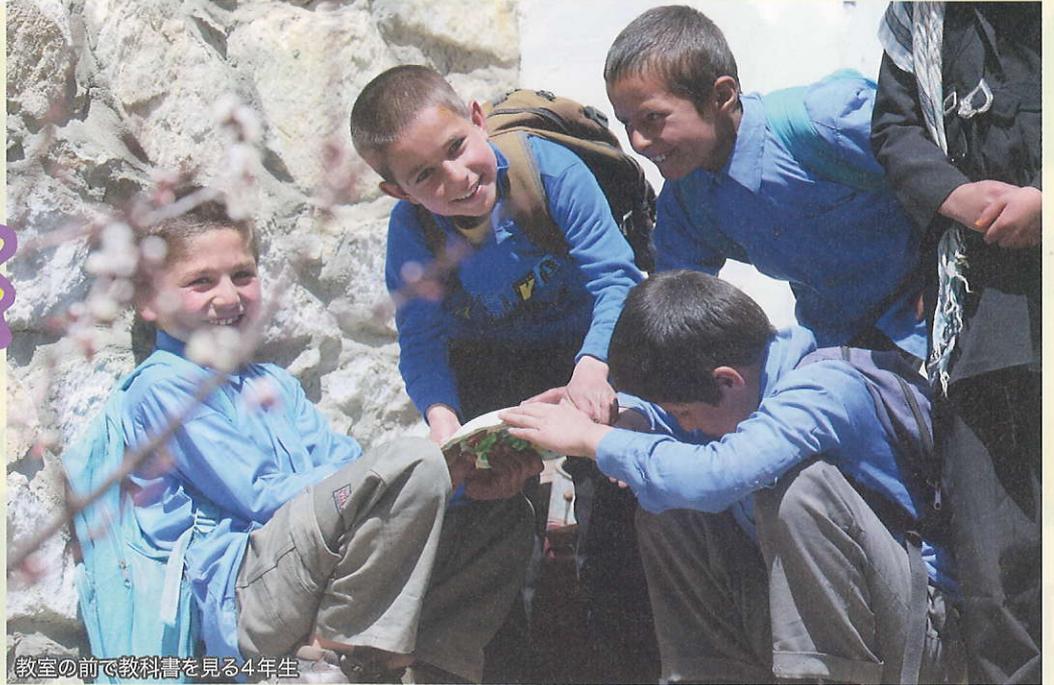




# 山の子どもたちとともに ～10年のあゆみ～



登校してくる子どもたち



教室の前で教科書を見る4年生



授業を終え、家に帰る低学年の子どもたち。  
1年から3年までが新校舎で学ぶ



写真は1年生。岩山に面した校舎の窓が割れていた



登校途中に笑顔でポーズ

会員のみなさま、「ばあーる(翼)」の公式最終号となる29号をお届けします。ここまであつという間でしたが、子どもたちの成長ぶりに、月日の流れを実感します。

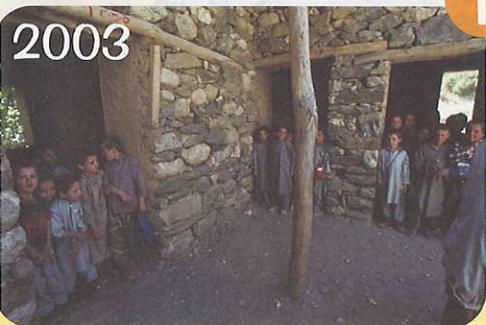
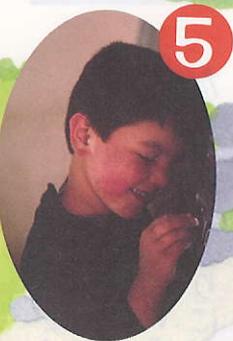
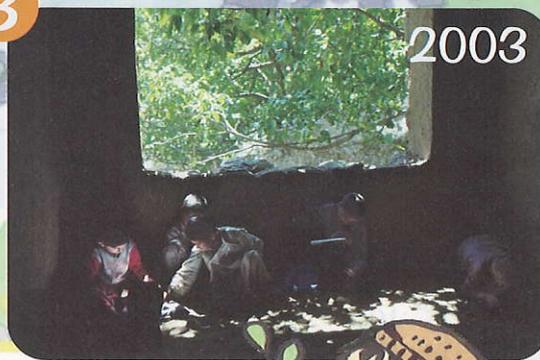
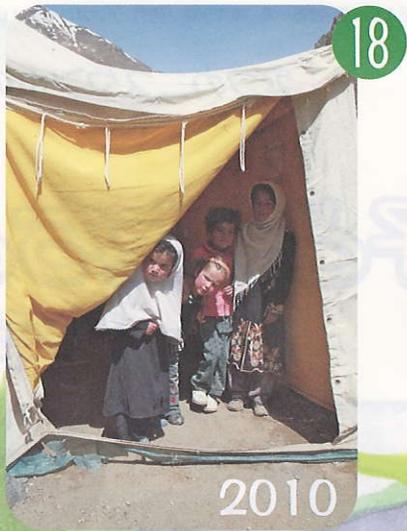
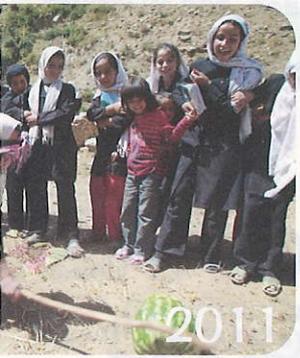
この10年間、「子どもたちが夢を実現できるように」という思いに添う形で、会員の皆さまのお気持ちを子どもたちに届けることができたのが一番のよこびです。その任を果たし、ホッとすると同時に寂しさも感じます。

アフガニスタンでは4月に大統領選挙が行われますが、メディアが伝える「対立と混乱」だけに目を向けるのではなく、子どもたちの夢と人びとの希望を通して、アフガニスタンの未来をこれからも見続けていきたいと思います。

会の活動は規模を縮小しますが、あと3年、活動を続けます。その間もその後、会員の皆さまといままでのようにつながっていただけることを心より願っています。

10年間のご支援、本当にありがとうございました。

長谷川海



# 山の学校の子どもたちとともに 10年のあゆみ

イラスト・近藤理恵





2012

24



20



19



23



2012

22



21



8

2006

9



2006

7



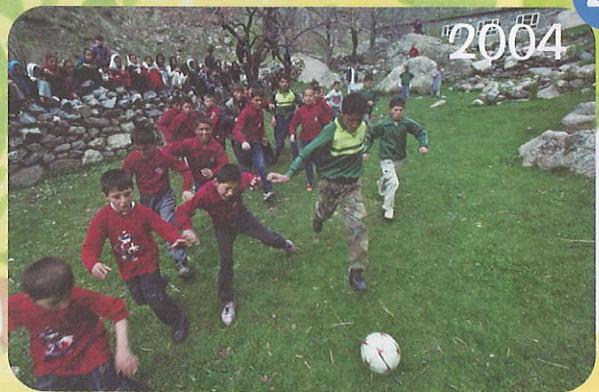
2005



6

- ① 最初に目にした山の学校。住民たちが作り上げた校舎だ 2003年
- ② 椅子も机もなく地面に座って勉強する1年生 2003年
- ③ 素通しの窓辺。外からの光で勉強する 2003年
- ④ サッカーを楽しむ。ボールとジャージは昨日、手にしたばかり 2004年
- ⑤ 黒板に字を書く 2005年
- ⑥ ノートに覚えたての字を書く 2005年
- ⑦ 山道を駆けて登校する 2005年
- ⑧ ノートとカバンにうれしそう 2006年
- ⑨ 訪問団が持参した縄跳びで遊ぶ 2006年
- ⑩ 手にした手袋を掲げる子どもたち 2007年
- ⑪ 初々しさにあふれた1年生 2007年
- ⑫ コンピューターの動画に興味津々 2008年
- ⑬ マスドが眠るサリチャの丘からパンシール川を見下ろす故サフダル校長 2009年
- ⑭ 職員室の中にある図書コーナーで「本を読む授業」 2009年
- ⑮ 教科書が足りず、一緒に見る1年生 2009年
- ⑯ 家事の手伝いの合間に家で勉強する 2010年
- ⑰ 低学年の子どもをやさしく指導してくれた故カリマ先生
- ⑱ テント教室から顔を出す3年生 2010年
- ⑲ スイカ割りには、楽しい思い出になった 2011年
- ⑳ アンズを収穫する 2011年
- ㉑ 春。見事な花を咲かせるアンズ 2012年
- ㉒ 生徒たちの集合写真。後ろにテント教室と山の学校が見える 2012年
- ㉓ 川沿いに建設中の新校舎 2012年
- ㉔ 手をつないで登校。はるかかなたに山の学校が見える 2012年

4



2004

## ムルサルさんのカブール通信

2001年の米同時多発テロをきっかけに一旦は平和を取り戻したアフガニスタン。本当に私の中でもあっという間に過ぎた13年でした。今年はアフガニスタンの歴史を変える瞬間でもあります。何といっても、アフガニスタンの大統領が暗殺以外で交代するのは、歴史上初めてといってもよいかも知れません。それに伴う、大統領選挙、外国軍の撤退などアフガニスタンがいよいよ一人立ちをする時が迫ってきています。そんな中、山の学校も10年という節目の年を迎え、会としての支援が終わります。10年といってもいろんなことがありました。やはり大きな出来事は、サフダル校長、そしてカリマ先生が亡くなったこと。極めて残念でなりません。会の支援が始まった当初の先生が2人もいなくなったのですから。まだまだこの国では、人の死が身近にあるのだと感じざるを得



サフダル校長も父のように慕い山の学校のよき協力者だったハジ・サードゥティンのお墓参りのあと疲れて座り込む私たち。パンジシールの美しい渓谷が見渡せ、さらにはマスードのお墓も見えるここにハジ・サードゥティンは自分の父親とともに眠っています。

ません。しかしながら、山の学校がパンジシール州の小学校の中で一番になったことや、新校舎ができたこと、そして年に一度山の会のみなさんが学校を訪問し、子どもたちと触れ合えたことは、生徒たちの大きな財産になったと思います。文房具やプレゼント、一緒に遊んだスイカ割りや縄跳び。子どもたちが成人して自分の子どもたちにあの頃の思い出をきくと話すことと私は確信しています。

まだまだ、治安面でも国としても経済的にも何もかも落ち着かない国ですが、今まで以上に皆さまには、アフガニスタンの行方を暖かく見守っていただければと思います。さらには、何かの形でまたアフガニスタンに積極的に関わっていただければこれほど嬉しいことはありません。私の大好きなこの第2の故郷アフガニスタンの子どもたちに多大な支援をいただき、皆さまには、心より感謝をいたします。そしていつか皆さまにアフガニスタンを訪問していただける日がくることを心より願っております。

カブールより 愛をこめて  
安井浩美

2014年3月以降の  
体制についてお知らせします

### 【ご連絡方法】

これまでと同じです(住所、電話・FAX、メールアドレスともに)。

### 【会報】

「はあーる増刊(仮題)」として、年1回(合計3回)の発行となります。内容は現地訪問となります。

### 【現地訪問報告会】

秋口を予定しております。日時が決まりましたらはがきでご連絡いたします。

### 【ご寄付】

ご寄付はこれまでと変わらず受け付けます。引き続きご支援賜りますようお願いいたします。

### 事務局から

●長倉代表からのメッセージ(別紙)を同封いたしました。

●分割会費が未払いの方へ郵便振込み用紙を同封させていただきましたので、指定期日までに納入くださいませすようお願いいたします。なお、会費納入のお願いは今回が最後になります。

●別途同封いたしました郵便振込用紙は、ご寄付、ポストカードや山の学校クリアファイルの購入等にご活用いただければ幸いです。

●これまでの切手や書き損じはがきのご提供に感謝申し上げます。3年間活動を延長いたしますので引き続きご協力お願いいたします。



アフガニスタン山の学校支援の会は、写真家・長倉洋海が取材活動を通して出会った、パンジシール渓谷ポーラン村の子どものための教育支援を目的として設立された非営利の団体です。2004年2月に設立、以後2014年3月までの約10年間にわたり活動を続けていきます。